

ESRI Research Note No.14

南関東における通勤時間の違いによる生活時間との関係の傾向分析

多田智和、杉下昌弘

July 2010



内閣府経済社会総合研究所
Economic and Social Research Institute
Cabinet Office
Tokyo, Japan

ESRI リサーチ・ノート・シリーズは、内閣府経済社会総合研究所内の議論の一端を公開するために取りまとめられた資料であり、学界、研究機関等の関係する方々から幅広くコメントを頂き、今後の研究に役立てることを意図して発表しております。

資料は、すべて研究者個人の責任で執筆されており、内閣府経済社会総合研究所の見解を示すものではありません。

なお、今後の修正が予定されるものであり、当研究所及び著者からの事前の許可なく論文を引用・転載することを禁止いたします。

(連絡先)総務部総務課 03-3581-0919 (直通)

南関東における通勤時間の違いによる生活時間との関係の傾向分析

多田智和*

杉下昌弘**

2010年7月

1. 目的

経済社会総合研究所少子化ユニットでは、2008年度から、「ワーク・ライフ・バランス社会の実現と生産性の関係に関する研究」を実施している。

多田・杉下(2010)は、全国及び47都道府県毎の生活時間相互の関係の傾向分析(参考比較：少子化指標、経済指標)において、1人当たり県民所得上位20県の「正規の職員・従業員」の平日の生活時間の中で、大きな鍵を握っているのは、通勤時間である可能性が高いということ、発見していた。「正規の職員・従業員」の通勤時間と睡眠時間の関係について、各都道府県平均値の相関性が高いという結果が得られていた。

しかしながら、この傾向が、同じ都道府県内の通勤時間の違いでも存在するものなのかどうかについては分からなかった。

そこで、この度、通勤時間の平均値が長い都道府県の中から、南関東^(*)の1都3県に絞り、「雇用されている人」の、通勤時間毎の生活時間を比較し、その関係の傾向分析を行った。あわせて、「正規の職員・従業員」の男女間での比較や、男性、女性それぞれで、「正規の職員・従業員」と「パート」での比較も行った。

(*)本原稿で用いる「南関東」とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県^(*)の1都3県を指す。

今回の傾向分析により、これまでの研究で推測したことの確認や新たな推測を行い、今後の研究の進め方の参考とするものである。

この分析を行うに当たって事前に調べた類似の分析例を、図表1-1に示す。

2. 使用するデータ

生活時間データとして、「通勤時間」、「仕事時間」、「睡眠時間」を使用する。

社会生活基本調査(総務省統計局)の2006年と2001年の公表データを使用する。多田・杉下(2010)で検討した、「正規の職員・従業員」の通勤時間毎の生活時間の相互比較をしたいが、その区分がないので、それに近い、「雇用されている人」の、「ふだんの片道の通勤時間」毎の、男女・男性・女性の、平日の行動者平均時間データを用いる。

「ふだんの片道の通勤時間」は、「30分未満」、「30分～1時間未満」、「1時間～1時間30分未満」、「1時間30分～2時間未満」の4区分のデータを用いる。

また、男女間比較や雇用形態間比較を行うために、「正規の職員・従業員」、「パート」の、「通勤時間」、「仕事時間」、「睡眠時間」データも用いる。

これらのデータの詳細を、図表2-1に示す。

*内閣府経済社会総合研究所主任研究官

**内閣府経済社会総合研究所研究官

3. 使用したデータの一覧表、作成したグラフ

使用したデータの一覧表、作成したグラフを、図表 3-1～図表 3-25 に示す。図表 3-1～3-5 のうち、社会生活基本調査データを引用したのは、図表 3-1、3-2、3-5 であり、図表 3-3、3-4 は、図表 3-1、3-2 から算出して求めたものである。

4. 分析結果から読み取れる傾向

(男女と女性については、正規の比率が小さくなると考えられる片道通勤時間 30 分未満のデータを除いた上で、分析を行った。)

- ア 男女については、「通勤時間」が長くなるにつれて、「睡眠時間」が短くなる傾向がある。「仕事時間」は、2006 年、2001 年ともに 550 分付近の数値となっており、通勤時間と仕事時間の関係はあまり見られない。(図表 3-7～3-10)
- イ 男性については、「通勤時間」が長くなるにつれて、「睡眠時間」が短くなる傾向がある。「仕事時間」は、「通勤時間」に関係なくほぼ一定である。(図表 3-11～3-14)
- ウ 女性については、2001 年は、「通勤時間」が長くなるにつれて、「睡眠時間」が短くなる傾向があるが、2006 年はその傾向が弱い。「仕事時間」は、男性よりばらつきが見られるものの、「通勤時間」に関係なくほぼ一定に近い。(図表 3-15～3-18)
- エ 「正規」について、平均値で男女差を比較すると、男性は「仕事時間」が長いにもかかわらず、「通勤時間」が長く、更に、「睡眠時間」も長い。(図表 3-19～3-20)
- オ 「正規」と「パート」について男性、女性それぞれで、平均値でその差を比較すると、男性は「正規」が「パート」よりも睡眠時間が短くなるが、女性は「正規」と「パート」で睡眠時間の差が現れない。(図表 3-21、3-22)
(エ、オに関する説明の模式図を、図表 3-25 に示す。)

5. これらの傾向から考えられる平日の行動に関する仮説

- ア 通勤時間は本質的に仕事時間とは無関係である。そして、通勤時間の長短により自分の時間^(*)の長短が決まる。
(*)本原稿で用いる「自分の時間」とは、仕事時間と通勤時間を除いた時間を指す。
- イ 仕事時間を自力で調整することは難しい。^(*)
(*)ワーク・ライフ・バランスに理解のある個人が 1 人で仕事時間の短縮や休暇取得の促進を実践しようとしても、チームや組織に理解が無ければ、他の同僚や組織に迷惑が掛かる。仕事時間の短縮や休暇取得の促進を行うには、本人の意思に加えて、組織としての決断と取り組みが必要である。
- ウ 男性は、通勤時間が長くても困らないと考える人が多い。^(*)
(*)その背景として、何かしたい事があるわけではない(何かしなければならぬ事があるがしていない)ことと、通勤時間も仕事の一部として位置づけてしまっていることが考えられる。

6. 分析結果のまとめ

多田・杉下(2010)における、都道府県毎の「正規」の「男女」の平均値での比較の時と同様に、南関東の同じ都道府県内の通勤時間の違いによるデータでも、通勤時間と睡眠時間の間に高い相関が見られた。

自分の時間の獲得意欲に関係なく、男性・女性ともに、通勤時間が短い人の方が、通勤時間が長い人よりも、自分の時間が多く取れる。

通勤時間の短縮は、自分の時間を自助努力で獲得できる有力な手段であると考えられる^(*)。

(*)ライフスタイルには個人差があり、通勤時間が長い人でも、それが既にライフスタイルにおける適当な判断となっていて、現状以上の短縮ができない場合もある。

<参考文献>

- 1 . 多田智和・杉下昌弘(2010)「全国及び 47 都道府県毎の生活時間相互の関係の傾向分析(参考比較：少子化指標、経済指標)」ESRI Research Note No.9
- 2 . 永井暁子(2006)「社会生活基本調査からみたワーク・ライフ・バランスの実態」『統計』2006年7月号 p28-p34、日本統計協会
- 3 . 黒田祥子(2008)「1976-2001年タイムユーズ・サーベイを用いた労働時間・余暇時間の計測 - 日本人は働きすぎか?」Discussion Paper No.377、一橋大学経済研究所世代間問題研究機構
- 4 . 黒田祥子(2009)「日本人の労働時間は減少したか? 1976-2006年タイムユーズ・サーベイを用いた労働時間・余暇時間の計測」ISS Discussion Paper Series J-174
- 5 . 水野谷武志(2009)「生活時間統計による国際比較研究の到達点と課題 - 「社会生活基本調査」と HETUS による国際比較統計を素材に - 」『経済志林』、第76巻第4号、法政大学経済学部学会
- 6 . 佐藤香(2009)「余暇活動の国際比較」『生活時間の国際比較 - 日・米・仏・韓のカップル調査』p133-p148、連合総合生活開発研究所
- 7 . 小倉一哉・藤本隆史(2007)「長時間労働とワークスタイル」JILPT Discussion Paper Series 07-01

図表 1-1 類似の分析例

文献番号	対象	データソース	通勤時間や生活時間に関する記述
1	各都道府県平均	社会生活基本調査 (2001、2006)	<ul style="list-style-type: none"> ・「通勤時間」と「睡眠時間」は、2006年、2001年共に高い相関が見られた。 ・1人当たり県民所得上位20県の「正規の職員・従業員」の平日の生活時間の中で、大きな鍵を握っているのは、通勤時間である可能性が高い。
2	全国平均	社会生活基本調査 (1981～2001)	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きの夫は妻が働いているために片働きの夫よりも家事や育児のニーズがせまられているにもかかわらず、仕事関連時間が長いために、家事や育児に十分な時間を配分できないでいると考えられる。
3	全国平均	社会生活基本調査 (1976～2001)	<ul style="list-style-type: none"> ・1986年以降は通勤時間や家事労働などの家計生産時間が低下した結果、労働時間の減少以上に余暇時間が増加した。
4	全国平均	社会生活基本調査 (1976～2006)	<ul style="list-style-type: none"> ・1986年以降は通勤時間や家事労働などの家計生産時間が低下した結果、女性については労働時間にほぼ変化がない一方で余暇時間は増加した。
5	全国平均	社会生活基本調査 (2006)	<ul style="list-style-type: none"> ・各行動の生活時間における夫婦差に注目すると、特に「仕事関連」時間(夫>妻)、「家事」時間(夫<妻)において日本が突出して大きい。
6	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県	独自アンケート (インターネット) (2007)	<ul style="list-style-type: none"> ・実労働時間が長いほど余暇活動頻度は低くなる。逆に、通勤など時間や平日の家事時間、平日の余暇時間が長いほど、余暇活動頻度が高くなっている。 ・豊かな余暇活動をおこなうためには平日のゆとりが重要であり、平日に余暇活動を組み込んだ日常生活を習慣化する必要があるだろう。 ・平日のゆとりがなく、社会的ネットワークを構築・維持する活動がおこなえていないにもかかわらず、日本では、これらの活動を増やす必要が認識されていない。 ・職場での時間を短縮して、家族との共有時間や地域での時間をもつことは、贅沢ではなく、社会的な必要である。
7	全国	独自アンケート (郵送) (2005)	<ul style="list-style-type: none"> ・残業をする理由として、「残業手当が欲しいから」とか「会社にいるのが好きだから」などがあると指摘される。しかし、「残業手当や休日手当を増やしたいから」は4%、「定時に帰るより働いているほうが楽しいから」は1%しかない。 ・「業務量が多いわけではないがきちんと仕上げたくて残業をする人」は、実は2割しかない。 ・残業をする理由についても、通説で言われるような個人的な都合で残業する人は少数派であり、最大の理由は「業務量の多さ」にある。

(文献番号は、p.3の参考文献を参照)

図表 2-1 使用したデータの詳細

項目	出典
<p>通勤時間 仕事時間 睡眠時間</p>	<p>総務省統計局 平成 18 年社会生活基本調査 調査票 A に基づく結果 生活時間に関する結果 生活時間編（地域） 第 6 表 曜日，男女，職業・ふだんの片道の通勤時間・週間就業時間・従業上の地位，雇用形態，行動の種類別総平均時間，行動者平均時間及び行動者率（有業者） - 全国*，都道府県，14 地域，8 大都市圏・8 大都市圏以外，都市階級の全国及び 47 都道府県の 平日 男女 行動者平均時間 男女、男、女、「うち雇用されている人」の、(ふだんの片道の通勤時間) 30 分未満、30 分～1 時間未満、1 時間～1 時間 30 分未満、1 時間 30 分～2 時間未満の数値 男、女、「うち正規の職員・従業員」の数値 男、女、「パート」の数値 http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001008021&cycocode=0</p> <p>総務省統計局 平成 13 年社会生活基本調査 調査票 A に基づく結果 生活時間に関する結果 地域 報告書非掲載表 第 3 表 曜日，男女，ふだんの就業状態，年齢・従業上の地位，雇用形態・職業，行動の種類別総平均時間，行動者平均時間及び行動者率（15 歳以上人口） 全国，都道府県，14 地域，7 大都市圏，都市階級の全国及び 47 都道府県の 平日 男女 行動者平均時間 男、女、「うち正規の職員・従業員」の数値 男、女、「パート」の数値 第 4 表 曜日，男女，従業上の地位，ふだんの片道の通勤時間・自家用車の有無，行動の種類別総平均時間，行動者平均時間及び行動者率（有業者） 全国，都道府県，14 地域，7 大都市圏，都市階級の全国及び 47 都道府県の 平日 男女 行動者平均時間 男女、男、女、「うち雇用されている人」の、(ふだんの片道の通勤時間) 30 分未満、30 分～1 時間未満、1 時間～1 時間 30 分未満、1 時間 30 分～2 時間未満の数値 http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000000150010&cycocode=0</p>

図表 3-1 使用したデータの一覧表(2006 年)

			男女			男			女		
			睡眠時間(分)	通勤時間(分)	仕事時間(分)	睡眠時間(分)	通勤時間(分)	仕事時間(分)	睡眠時間(分)	通勤時間(分)	仕事時間(分)
埼玉県	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	438	53	482	455	59	554	422	47	411
		30分～1時間未満	433	102	551	438	101	580	422	102	488
		1時間～1時間30分未満	408	144	585	410	142	604	405	150	523
		1時間30分～2時間未満	382	197	561	376	197	583	402	186	494
千葉県	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	427	53	476	449	52	538	410	54	421
		30分～1時間未満	423	102	540	430	102	576	413	104	479
		1時間～1時間30分未満	398	147	558	392	145	576	413	151	504
		1時間30分～2時間未満	388	180	586	384	180	602	408	180	531
東京都	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	429	53	473	433	54	563	425	52	393
		30分～1時間未満	413	96	524	417	97	556	408	94	470
		1時間～1時間30分未満	409	142	554	416	139	573	390	149	500
		1時間30分～2時間未満	394	185	514	394	193	530	397	160	461
神奈川県	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	430	54	498	445	55	573	421	55	434
		30分～1時間未満	417	98	540	423	100	574	406	94	470
		1時間～1時間30分未満	396	146	577	397	148	584	395	135	563
		1時間30分～2時間未満	390	190	562	391	191	560	386	183	533
埼玉県	正規の職員・従業員				426	108	596	418	97	528	
千葉県	正規の職員・従業員				413	112	591	412	99	538	
東京都	正規の職員・従業員				416	100	582	414	88	507	
神奈川県	正規の職員・従業員				414	112	594	400	96	541	
埼玉県	パート				473	61	464	417	54	379	
千葉県	パート				476	77	379	405	59	364	
東京都	パート				449	80	348	416	71	335	
神奈川県	パート				436	84	435	411	61	353	

睡眠時間の行動者平均時間は、仕事をしていない人の数字も含むため、この算出方法は厳密ではない。厳密な比較を行うには、個票を用いて、仕事をした人の、睡眠時間、通勤時間から算出しなければならないが、ここではだいたいの全体の傾向を把握するために、公表データを用いることとした。

図表 3-2 使用したデータの一覧表(2001年)

			男女			男			女		
			睡眠時間(分)	通勤時間(分)	仕事時間(分)	睡眠時間(分)	通勤時間(分)	仕事時間(分)	睡眠時間(分)	通勤時間(分)	仕事時間(分)
埼玉県	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	433	47	473	446	52	551	421	43	397
		30分～1時間未満	432	99	525	431	98	556	435	100	434
		1時間～1時間30分未満	407	145	547	409	147	561	404	138	492
		1時間30分～2時間未満	394	201	552	399	202	549	391	181	533
千葉県	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	439	52	461	455	55	538	425	50	386
		30分～1時間未満	424	101	546	418	101	589	437	102	449
		1時間～1時間30分未満	413	148	548	418	149	574	399	145	461
		1時間30分～2時間未満	409	191	525	421	185	537	373	206	473
東京都	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	435	53	473	447	57	554	424	50	407
		30分～1時間未満	424	97	537	430	99	583	416	94	471
		1時間～1時間30分未満	410	146	545	414	149	568	399	138	492
		1時間30分～2時間未満	410	178	557	421	178	560	357	181	528
神奈川県	ふだんの片道の通勤時間	30分未満	433	55	476	456	56	557	413	53	393
		30分～1時間未満	419	97	522	422	94	557	414	101	449
		1時間～1時間30分未満	411	149	549	413	150	570	407	144	483
		1時間30分～2時間未満	418	184	536	416	185	546	395	184	443
埼玉県	正規の職員・従業員					423	107	568	409	99	506
千葉県	正規の職員・従業員					425	109	583	420	99	490
東京都	正規の職員・従業員					426	104	586	407	87	522
神奈川県	正規の職員・従業員					426	109	577	414	97	501
埼玉県	パート					473	76	440	415	49	345
千葉県	パート					478	99	408	419	57	350
東京都	パート					459	94	458	415	65	338
神奈川県	パート					460	95	332	413	64	345

睡眠時間の行動者平均時間は、仕事をしていない人の数字も含むため、この算出方法は厳密ではない。厳密な比較を行うには、個票を用いて、仕事をした人の、睡眠時間、通勤時間から算出しなければならないが、ここではだいたいの全体の傾向を把握するために、公表データを用いることとした。

図表 3-3 睡眠時間・通勤時間・仕事時間の男女差(正規の職員・従業員)

	2006年			2001年		
	睡眠時間 (分)	通勤時間 (分)	仕事時間 (分)	睡眠時間 (分)	通勤時間 (分)	仕事時間 (分)
埼玉県	8	11	68	14	8	62
千葉県	1	13	53	5	10	93
東京都	2	12	75	19	17	64
神奈川県	14	16	53	12	12	76

図表 3-1、3-2 から算出した。

図表 3-4 睡眠時間・通勤時間・仕事時間の差(正規の職員・従業員 - パート)

	2006年			2001年		
	睡眠時間 (分)	通勤時間 (分)	仕事時間 (分)	睡眠時間 (分)	通勤時間 (分)	仕事時間 (分)
埼玉県・男	-47	47	132	-50	31	128
千葉県・男	-63	35	212	-53	10	175
東京都・男	-33	20	234	-33	10	128
神奈川県・男	-22	28	159	-34	14	245
埼玉県・女	1	43	149	-6	50	161
千葉県・女	7	40	174	1	42	140
東京都・女	-2	17	172	-8	22	184
神奈川県・女	-11	35	188	1	33	156

図表 3-1、3-2 から算出した。

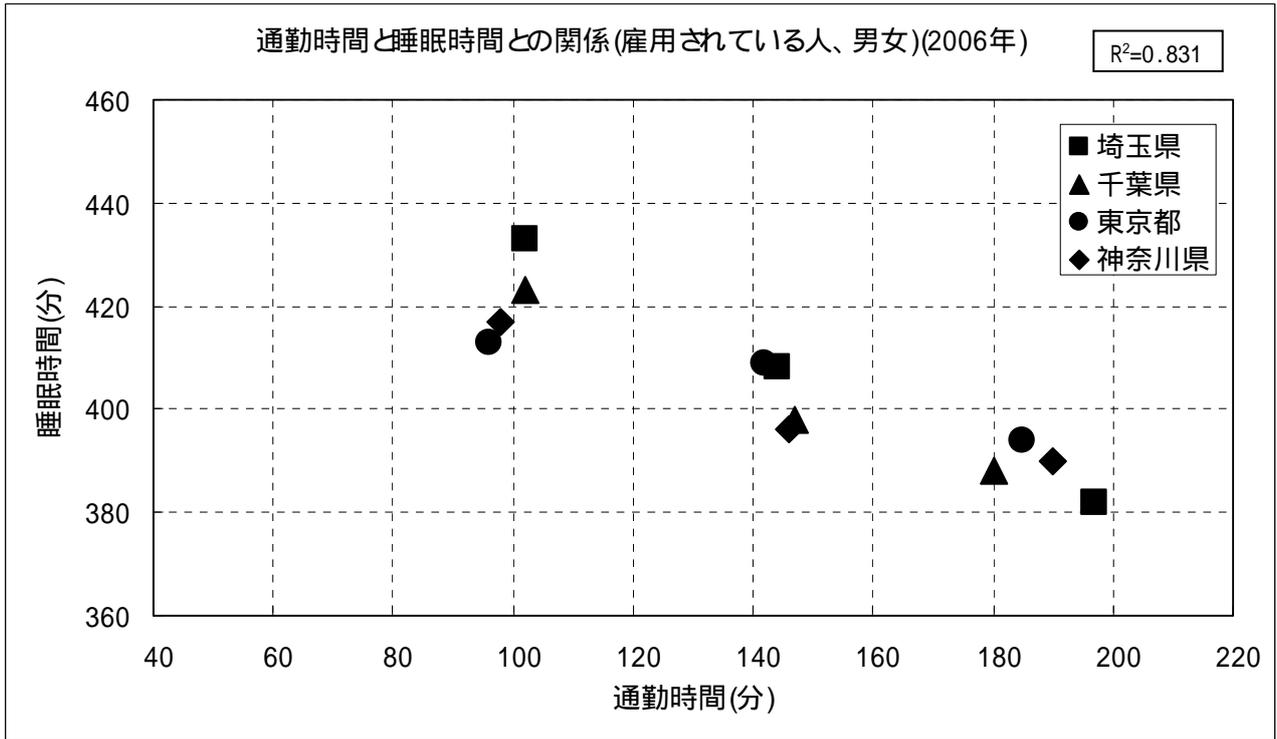
図表 3-5 雇用形態別の15歳以上推定人口

	2006年			2001年		
	雇用されている人総数 (千人)	正規の職員・従業員 (千人)	パート(千人)	雇用されている人総数 (千人)	正規の職員・従業員 (千人)	パート(千人)
埼玉県・男	1,885	1,515	52	1,909	1,627	39
埼玉県・女	1,209	457	524	1,175	484	466
千葉県・男	1,603	1,280	33	1,570	1,330	44
千葉県・女	1,192	472	491	1,062	429	448
東京都・男	3,144	2,539	97	2,995	2,466	44
東京都・女	2,445	1,037	817	2,332	1,145	714
神奈川県・男	2,436	2,002	81	2,383	2,083	40
神奈川県・女	1,668	710	545	1,514	609	575

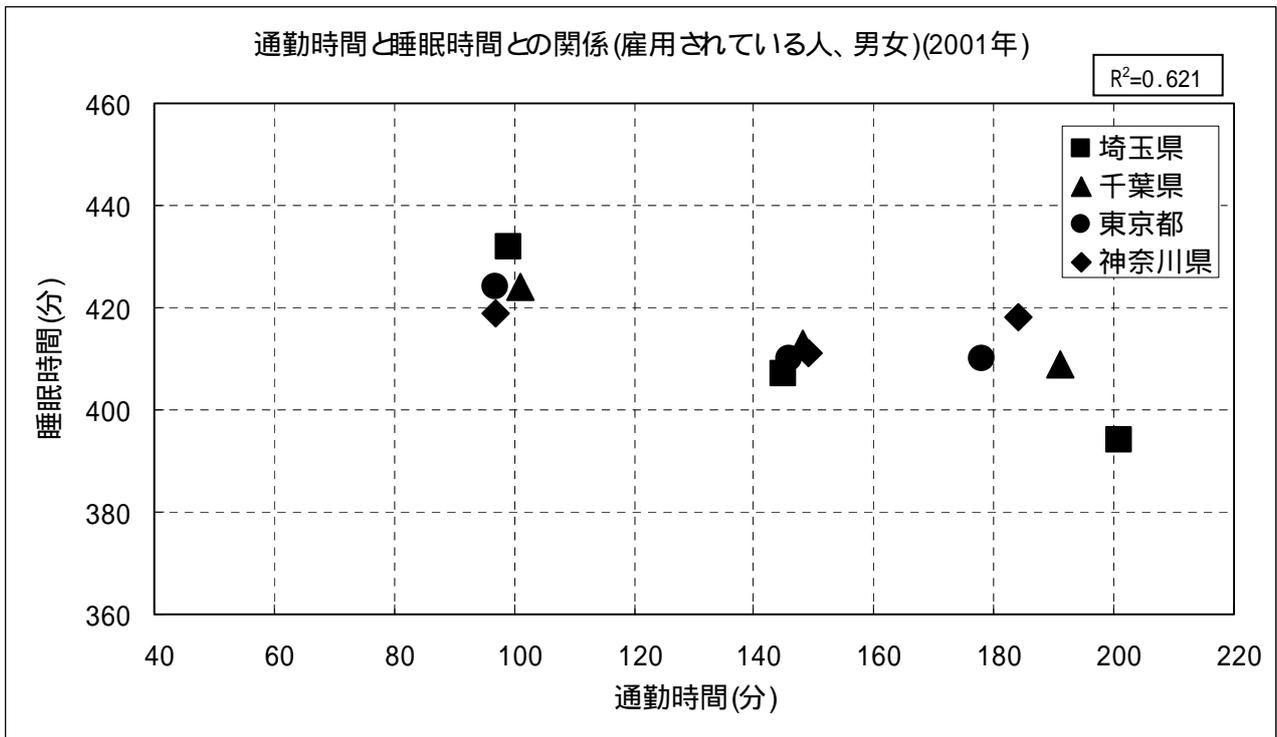
図表 3-6 作成したグラフ(2006年、2001年共通)

グラフタイトル
通勤時間と睡眠時間との関係(雇用されている人、男女、男、女)
通勤時間と仕事時間との関係(雇用されている人、男女、男、女)
睡眠時間・通勤時間・仕事時間の男女差(正規の職員・従業員)
睡眠時間・通勤時間・仕事時間の差(正規の職員・従業員 - パート)
雇用形態別の15歳以上推定人口
生活時間の差の模式図(男(正規)×女(正規)、女(正規)×女(パート)、男(正規)×男(パート))(2006年のみ)

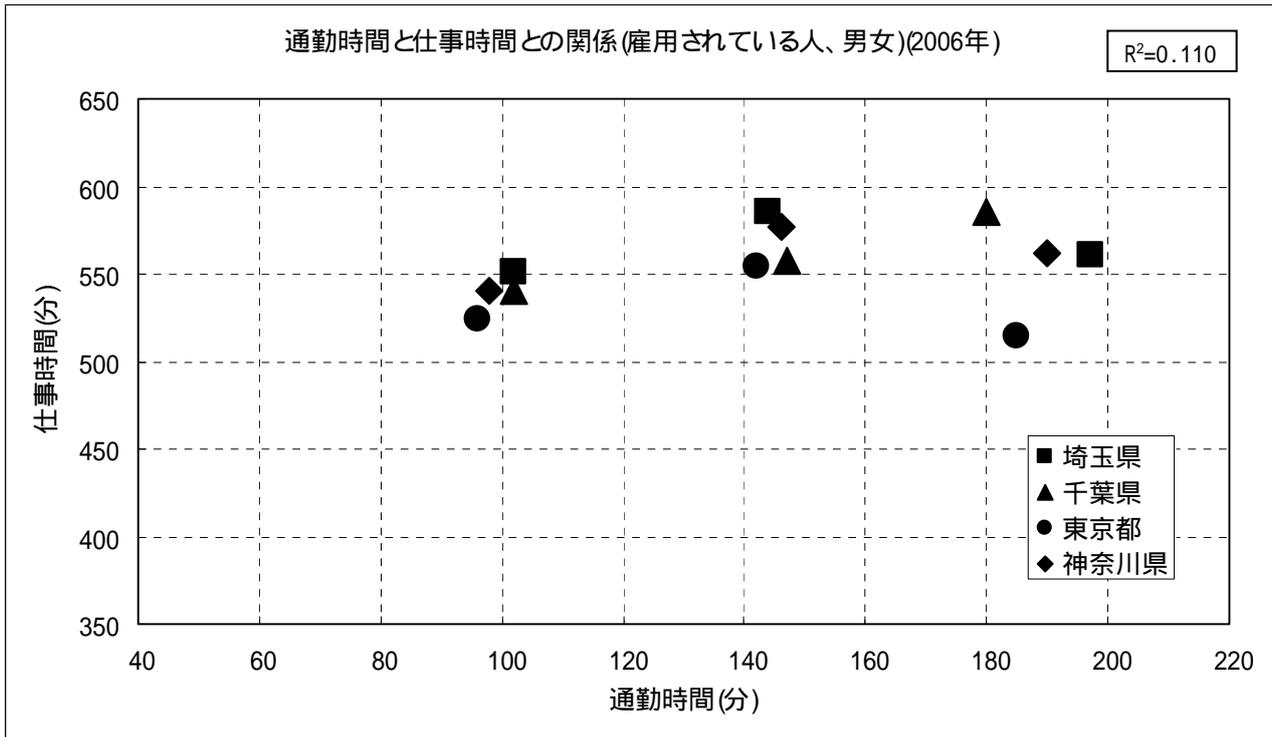
図表 3-7



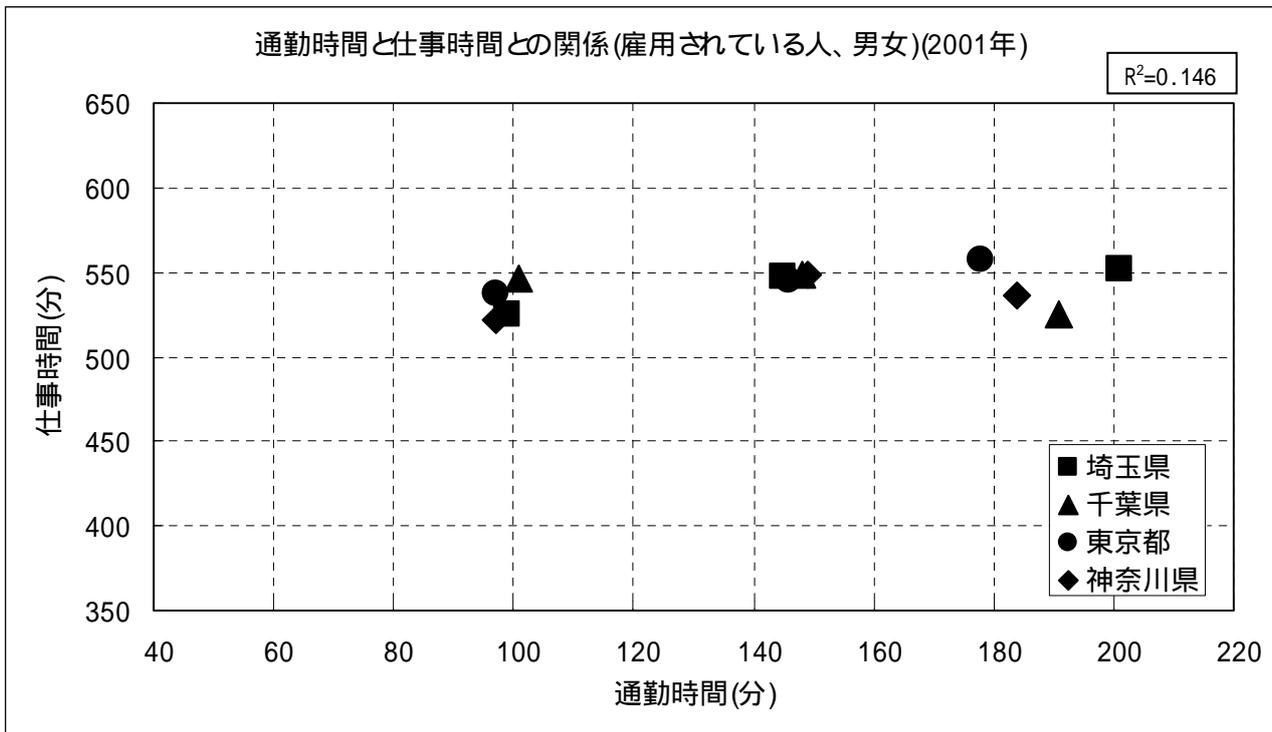
図表 3-8



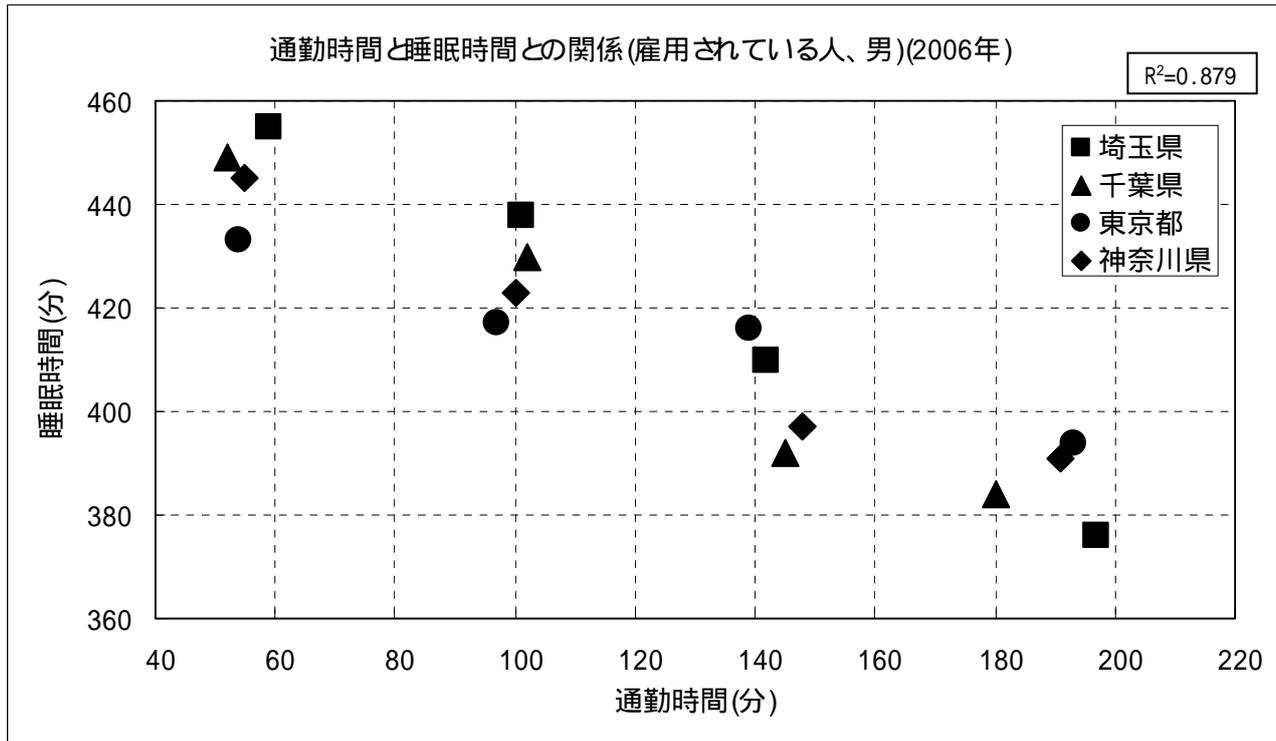
図表 3-9



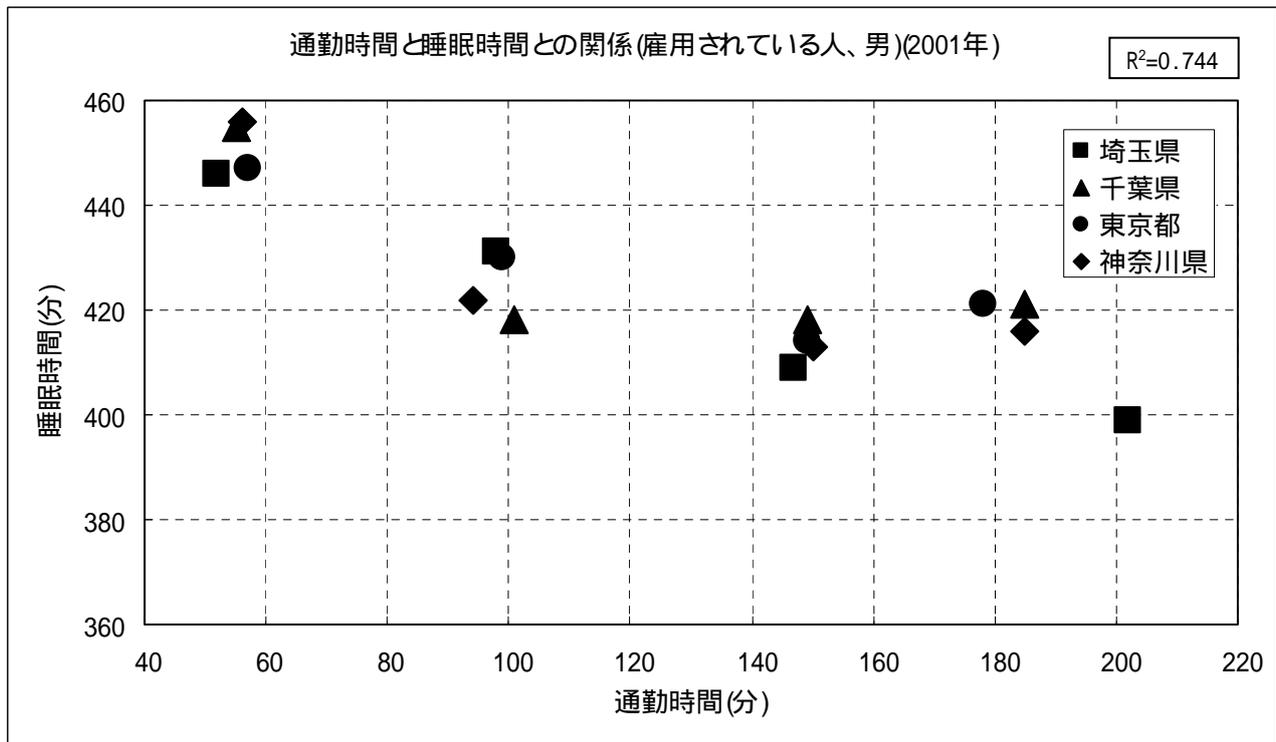
図表 3-10



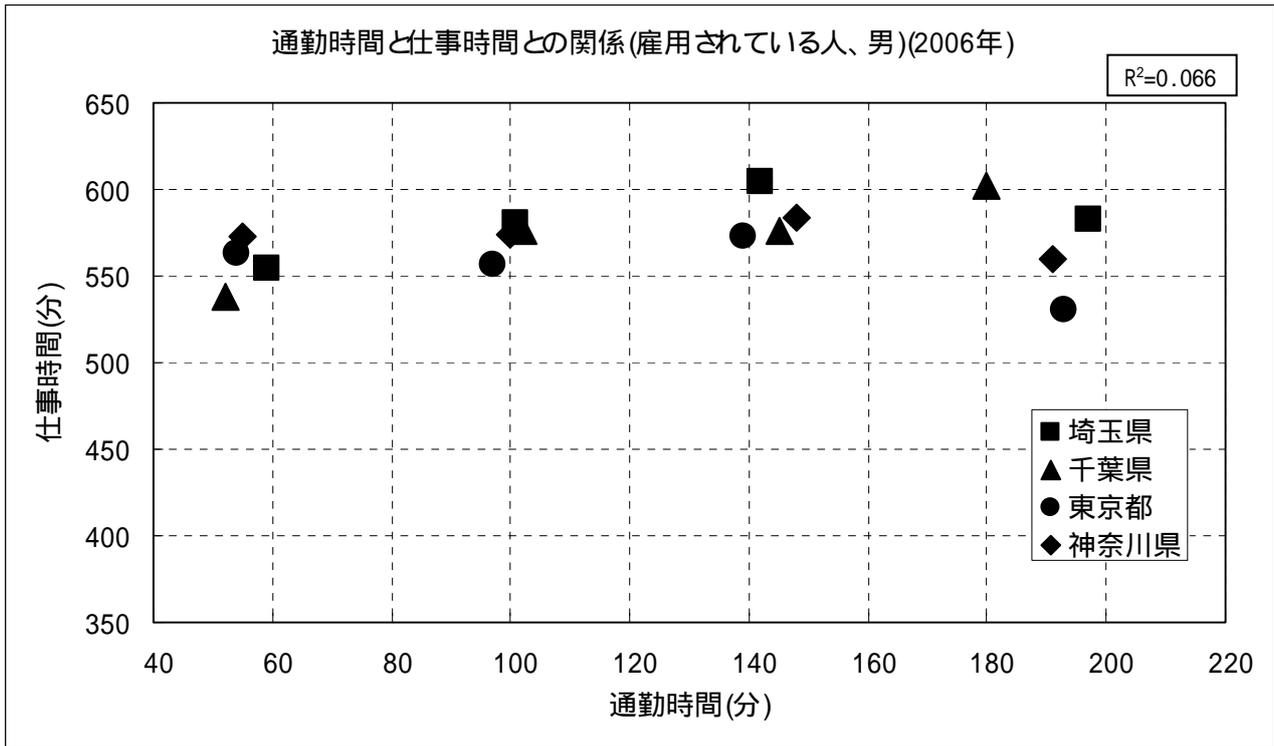
図表 3-11



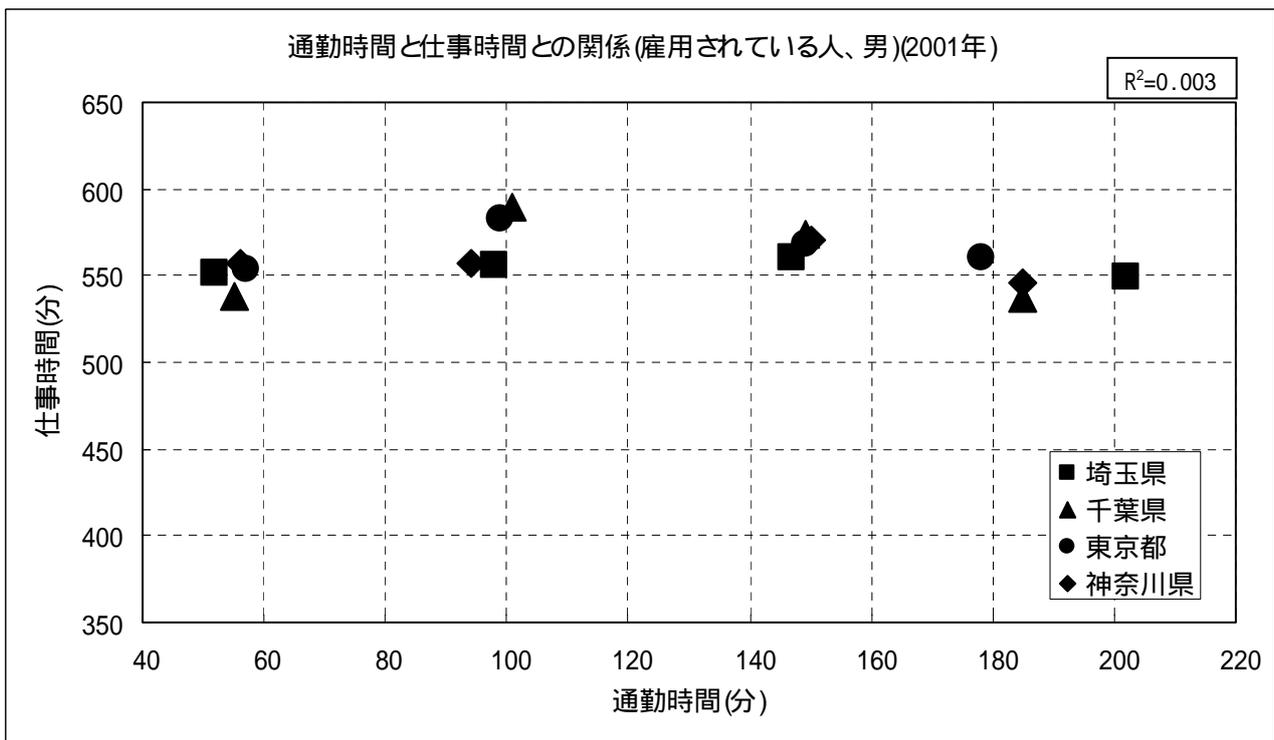
図表 3-12



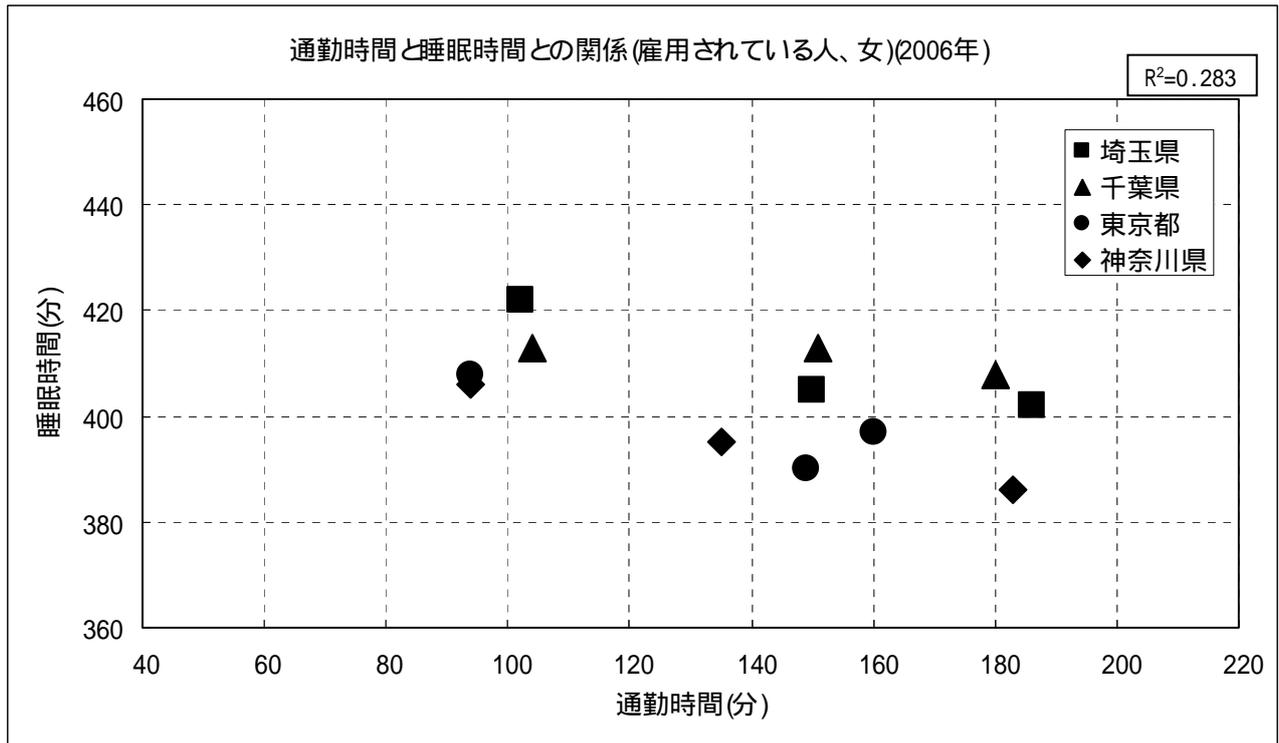
図表 3-13



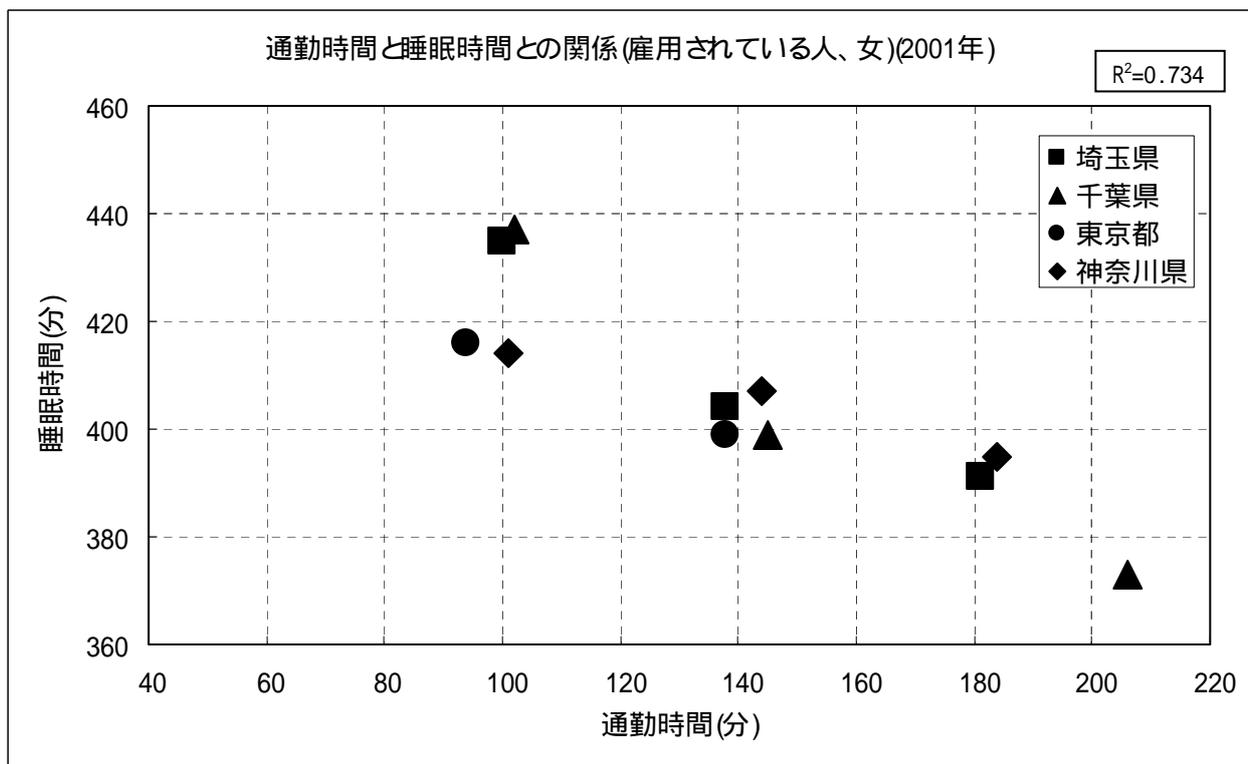
図表 3-14



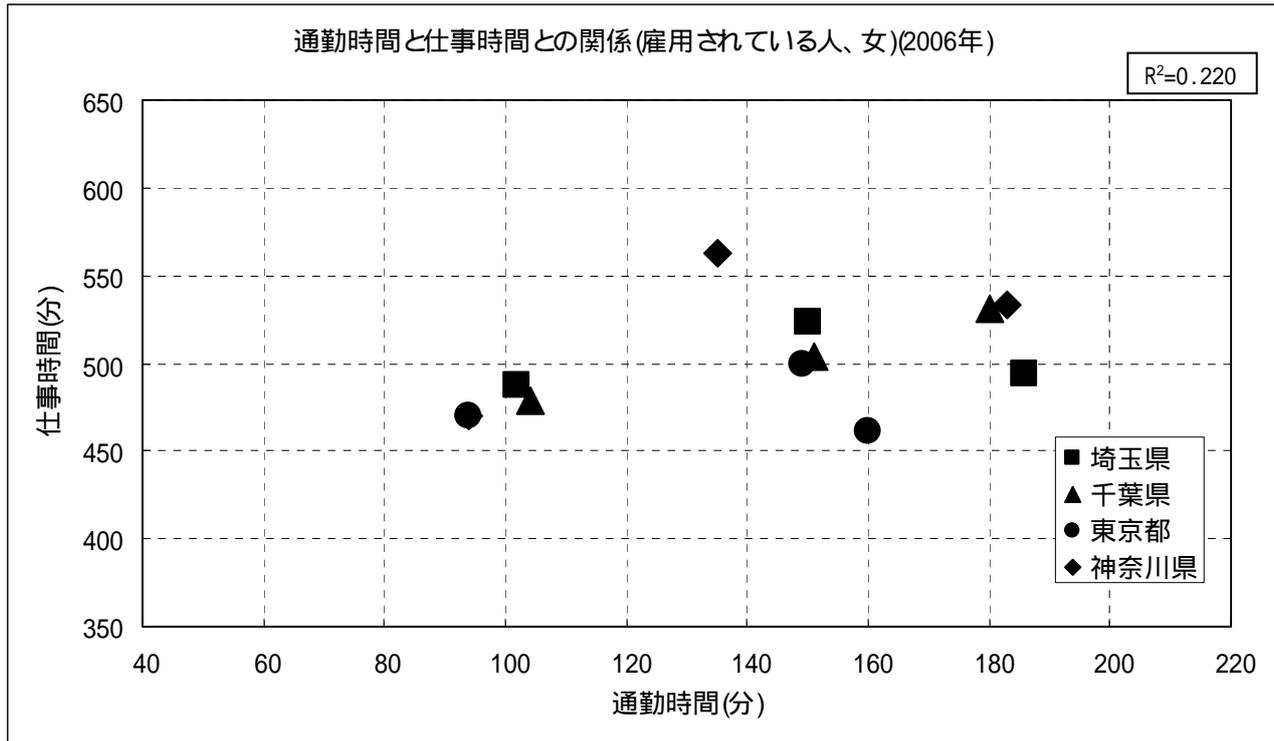
図表 3-15



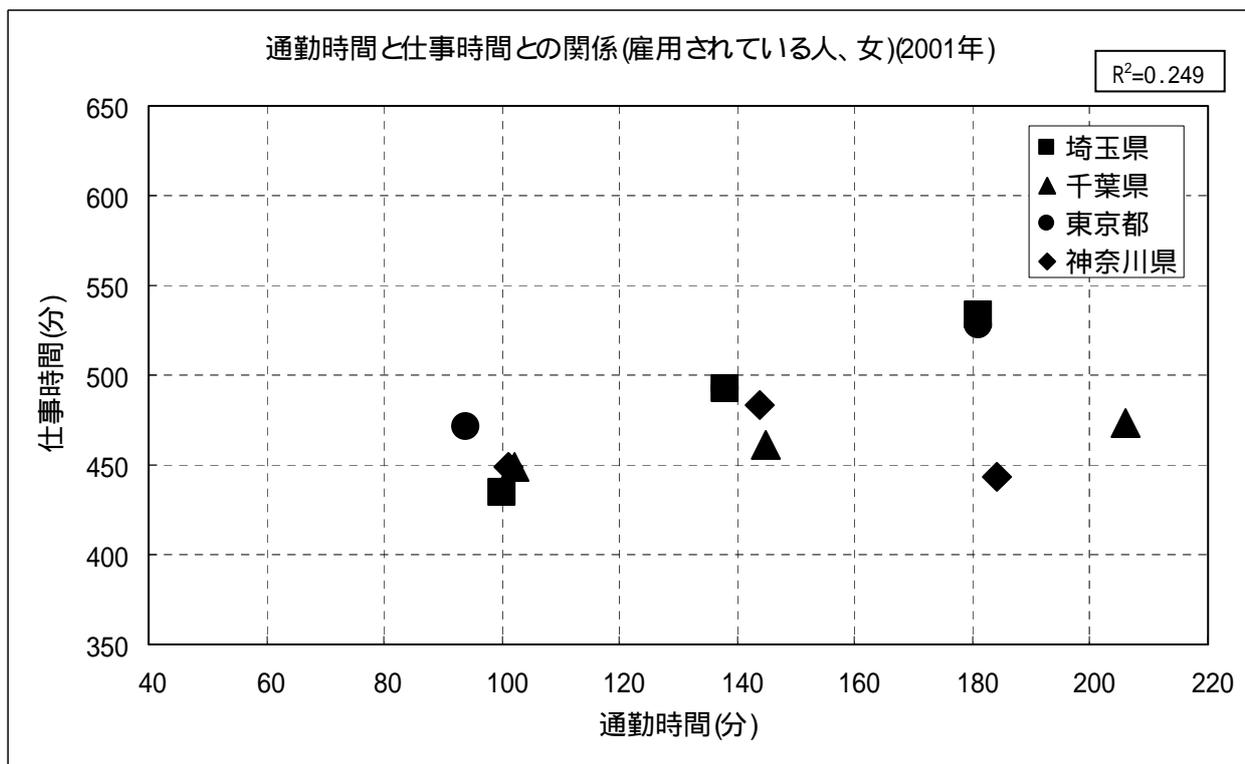
図表 3-16



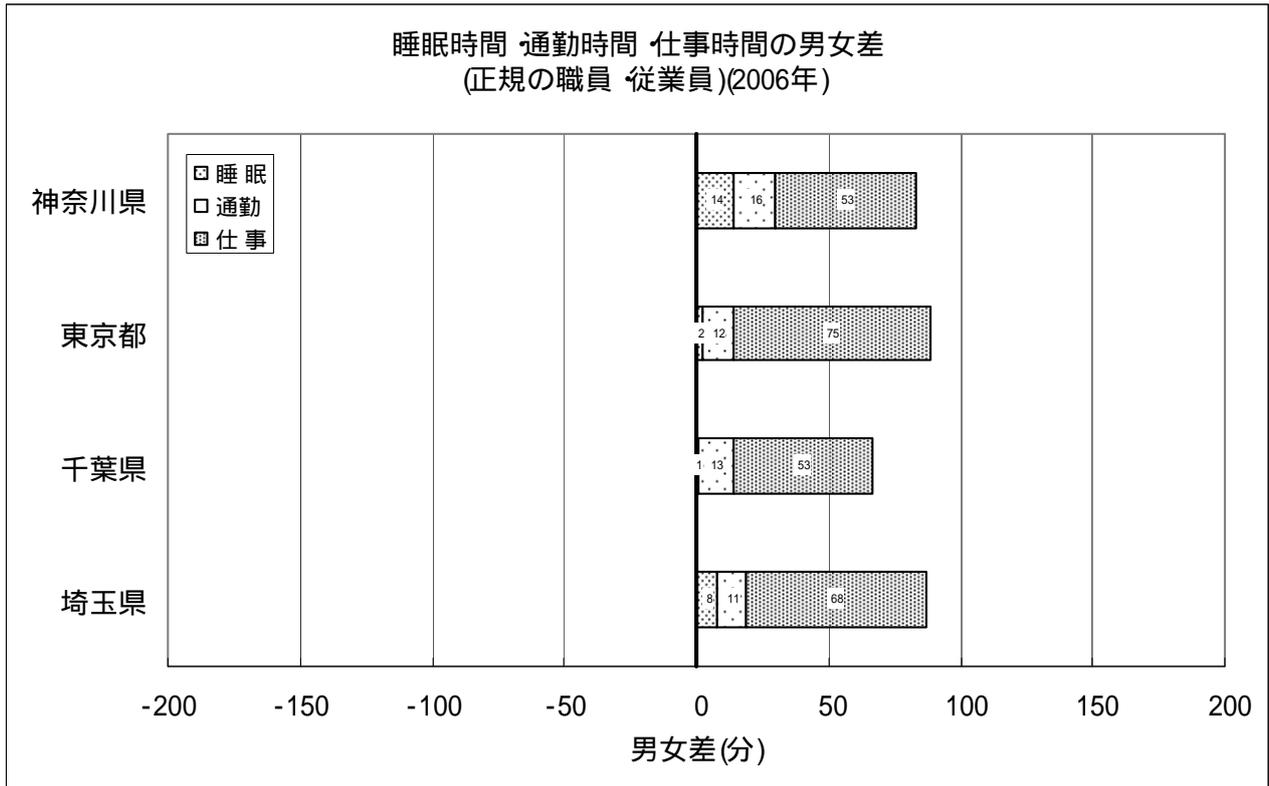
図表 3-17



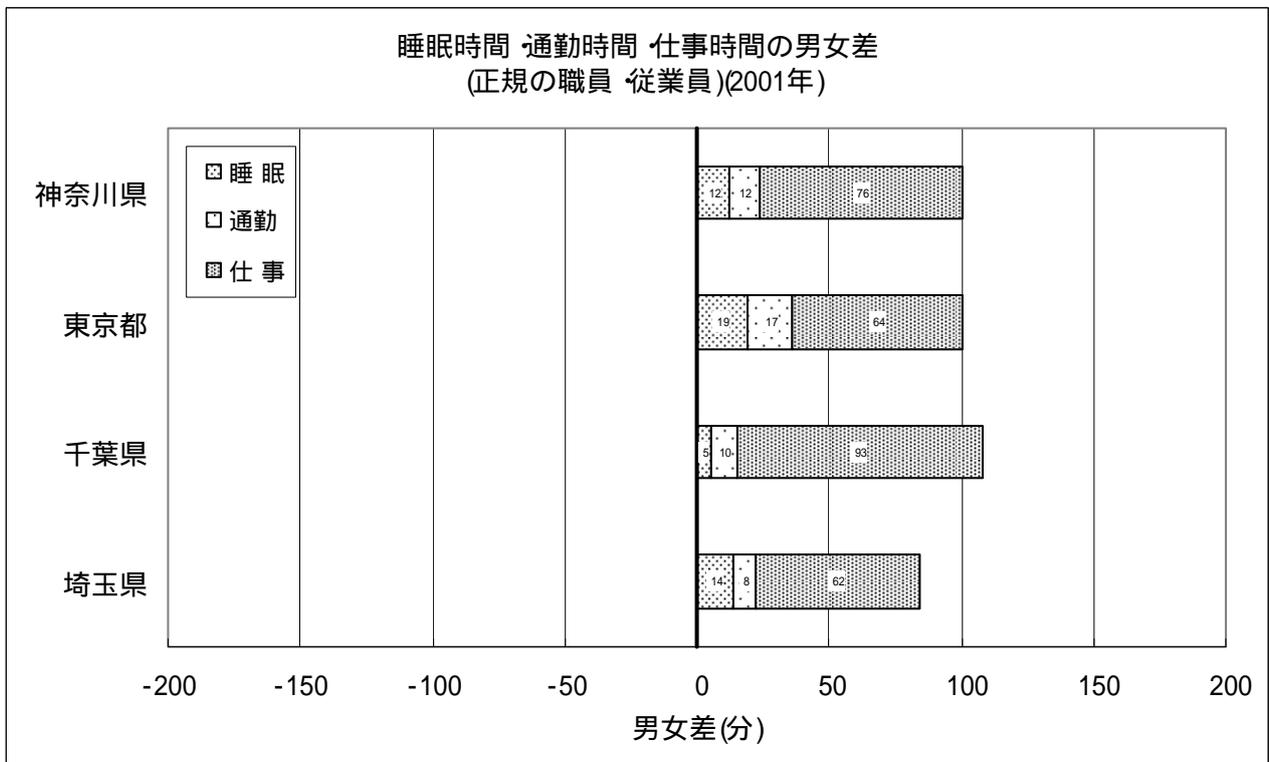
図表 3-18



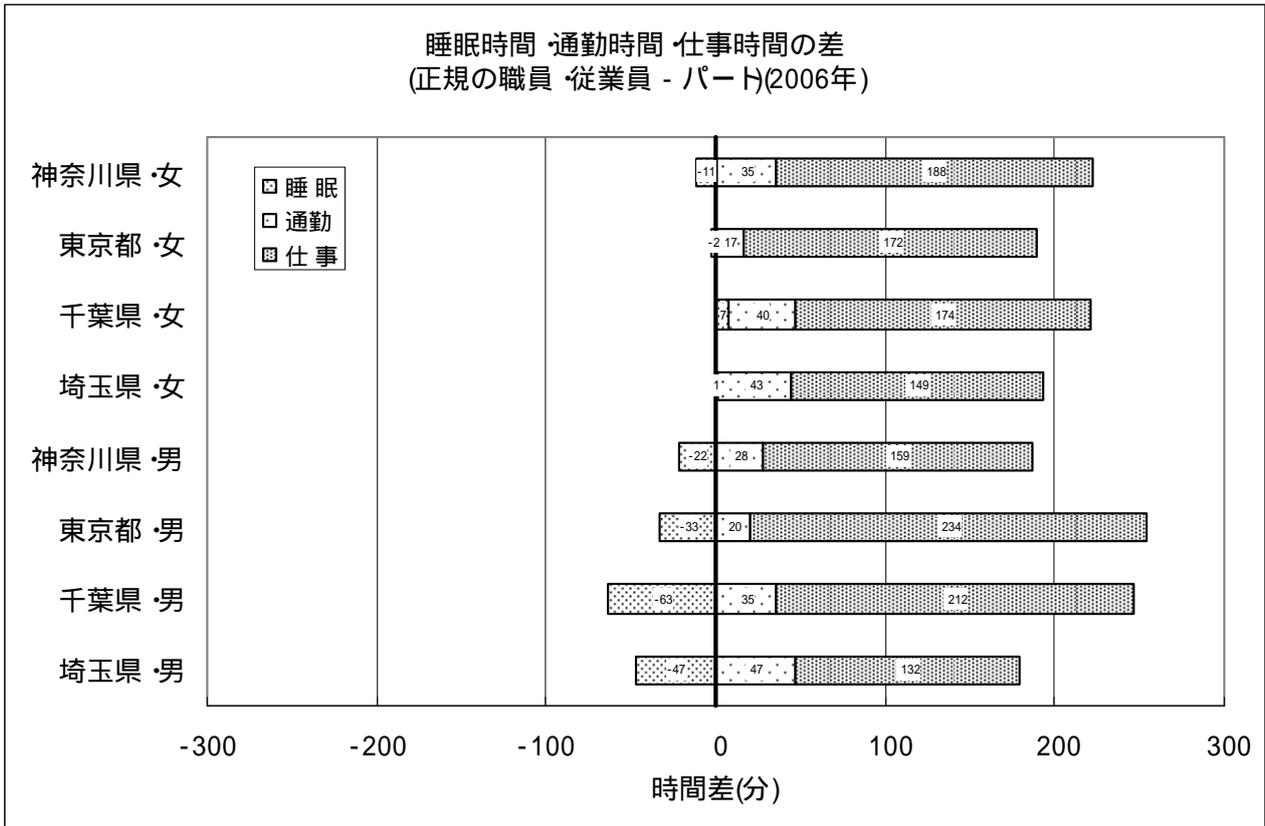
図表 3-19



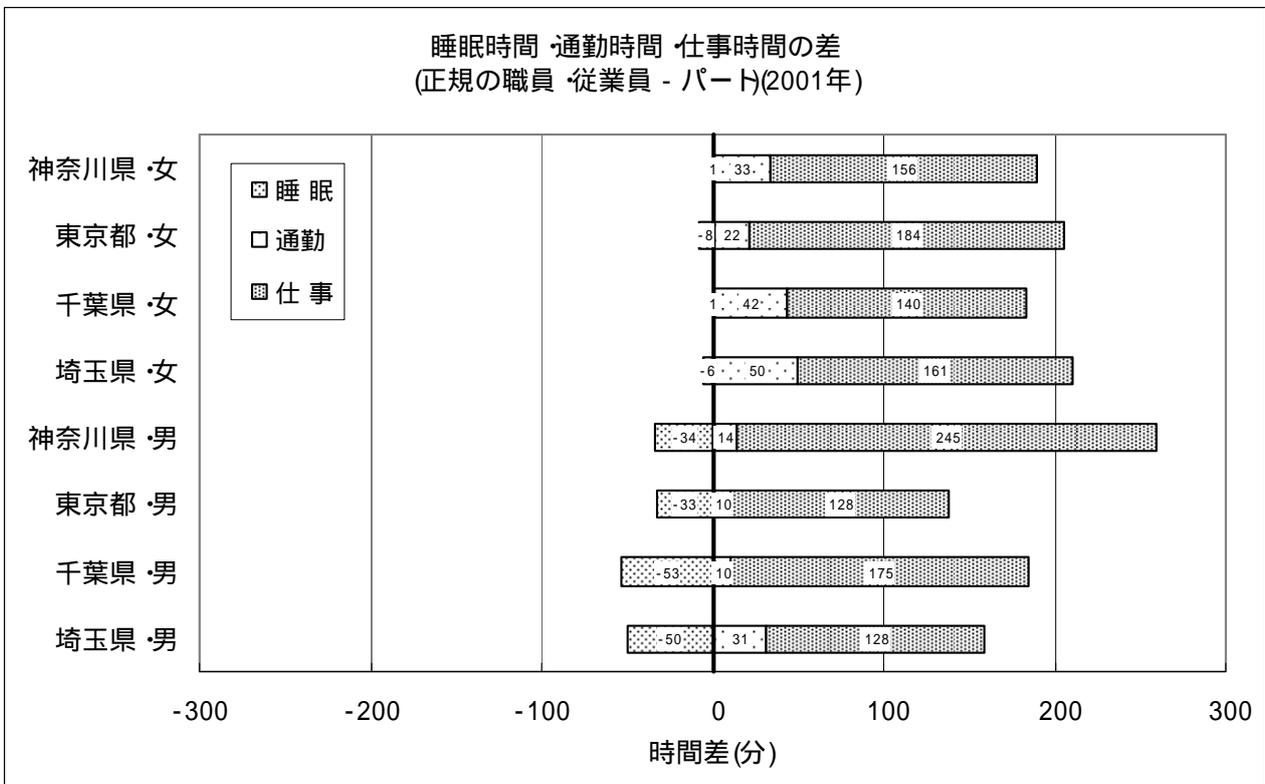
図表 3-20



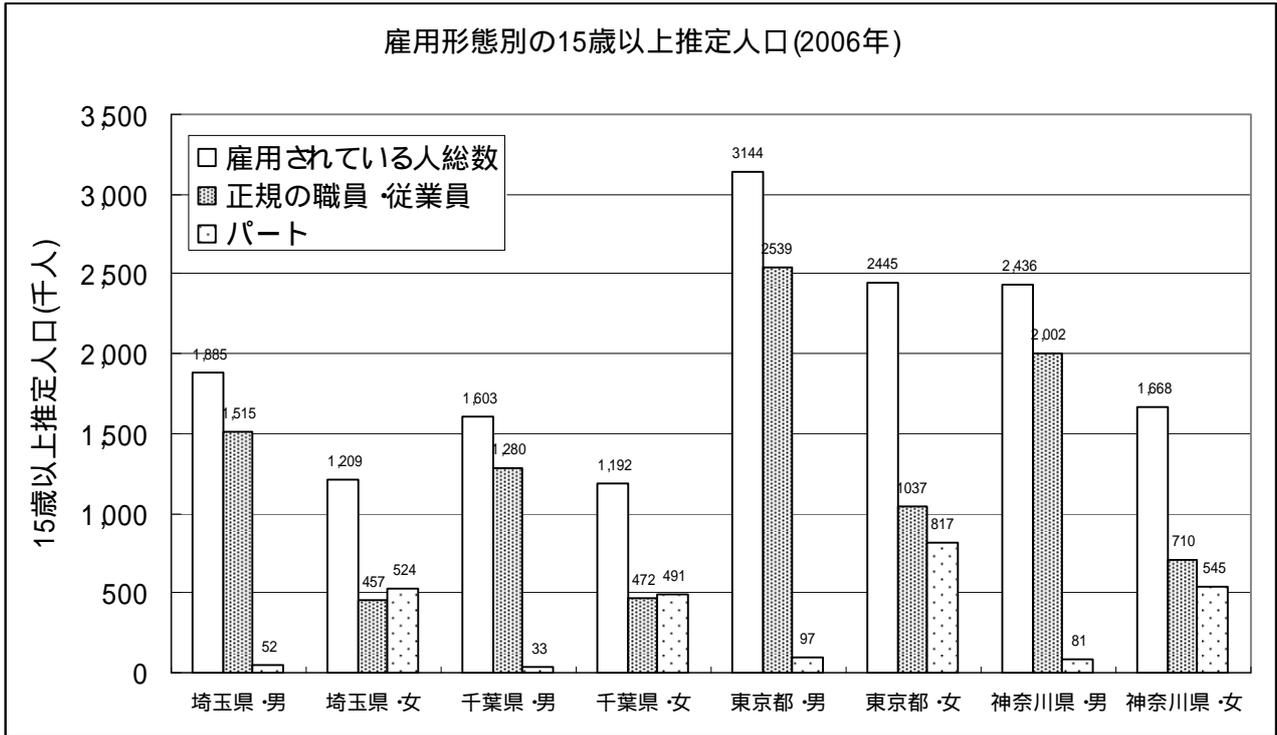
図表 3-21



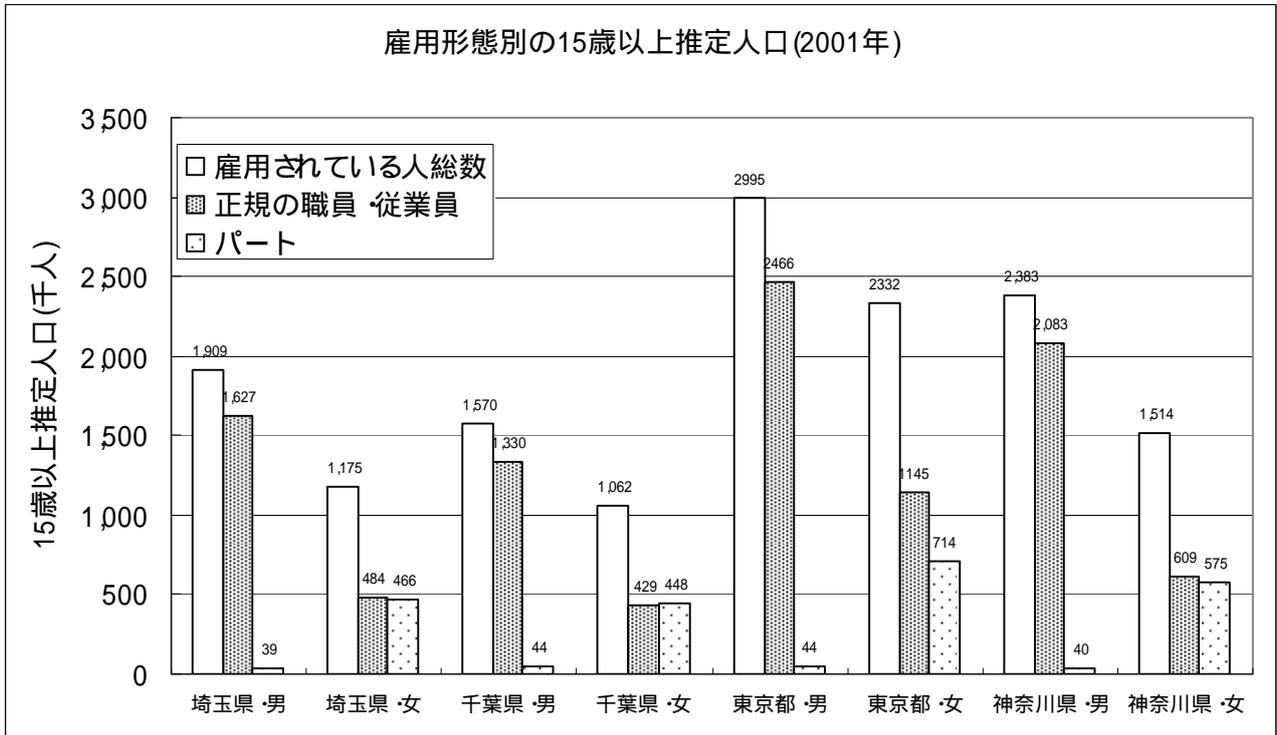
図表 3-22



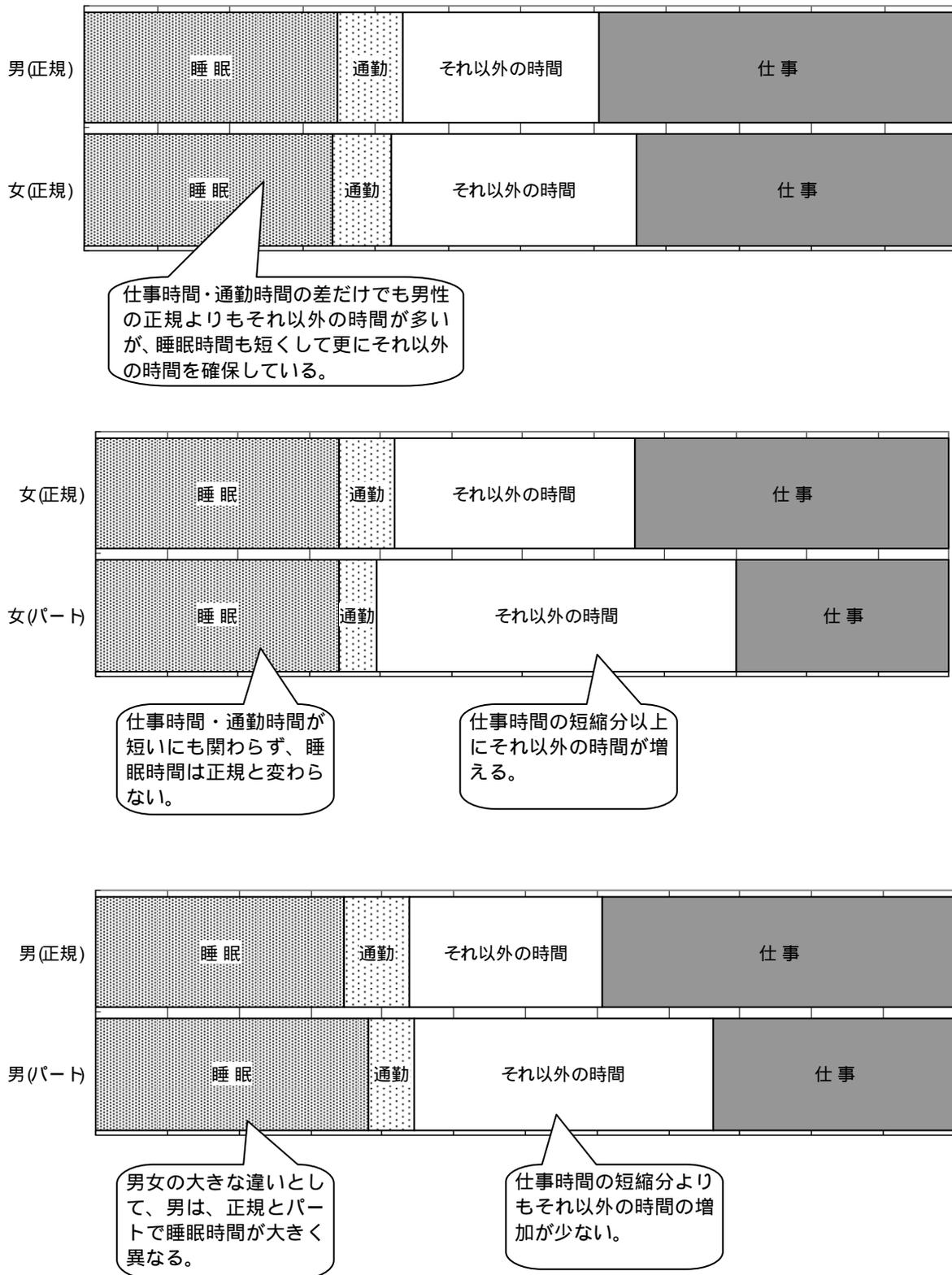
図表 3-23



図表 3-24



図表 3-25 生活時間の差の模式図(男(正規)×女(正規)、女(正規)×女(パート)、男(正規)×男(パート))



1 都 3 県の 2006 年のデータを相加平均したものである。

グラフの 1 目盛は 2 時間である。

睡眠時間の行動者平均時間は、通勤や仕事をしていない人の数字も含むため、グラフが厳密ではないことに留意が必要である。